

県内に暮らす障害のある人が描いた絵柄や文字を、色鮮やかな模様（パターン）やフォントにした「とやまふぉんと」が完成し、インターネットで公開が始まった。障害者アートを個人や企業に活用してもらおうと全国5

地域で始まった「ご当地フォント」の富山版で、県内の障害者支援事業所やデザイナーが連携して6種類を制作。早速商品への採用を決めた県内企業があり、今後も利用が広がる。（田辺泉季）

できた！富山版フォント

障害者アート活用

ネットに6種 企業早速採用

刺し子で作業を作る境さん（左）と辻村さん（右）が作業中



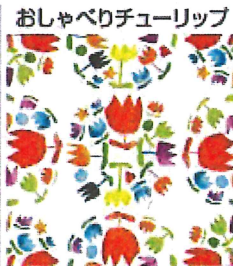
「ご当地フォント」は一般社団法人シブヤフォント（東京都渋谷区）が日本財団の助成を受け、本年度にスタートさせた。第1弾として富山のほか、滋賀、広島、大分、東京都江戸川区が参加している。富山版は昨年7月から制作が始まった。県障害者芸術活動支援センター「はーと」と「とやま」（高岡市）が中心となり、多機能型事業所「花椿かがやき（南砺市）」の利用者8人が描いた絵

トトふぉんと
TOYAMA FO
toyama font
good!

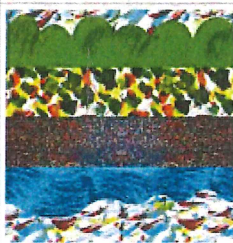
TOYAMA FONT
toyama font
good!



無限ダム



おしゃべりチューリップ



やまうみミルフィユ



ラブ&ピース



とやま文様

や文字を、デザイン会社アイアノオー（富山市）のグラフィックデザイナー山口久美子さんがフォントとパターンに仕上げた。完成したのは文字を刺し子で書いた「トトふぉんと」をはじめ

め、黒部ダムがモチーフの「無限ダム」、富山の自然を地層のように重ねた「やまうみミルフィユ」など6種類。「トトふぉんと」を手がけたのは、花椿かがやきに通う境仁志さんと定村晴美さんの2人で、「トト」

は境さんが自身の父のために刺し子を作っているという背景から名付けられた。シブヤフォントの磯村歩共同代表は「作品が生まれたストーリーがすてき。そこにデザイナーたちが共感してフォントになった」と話す。とやまふぉんとは、「ご当地フォント」のホームページで公開されている。フォントは無料、パターンは1種類につき5000円でダウンロードでき、収益の一部は事業所に還元される。既に商品ラベルへの採用を決めた県内企業があり、第2弾の計画も進行中だ。はーとととやまの米田昌功代表は「今後いろいろなフォントやパターンが生まれるよう、他の事業所にも参加を呼びかけた」と力を込める。障害のある人が生み出した芸術は「アール・ブリュット」と呼ばれ、既存の枠にとらわれない独自の表現が人気を集めている。花椿かがやきでは利用者が自由な創作活動に取り組み、管理者の坂田佳水さんは「普段何げなく取り組んでいた活動が評価され、本人も家族も喜んでいる。障害者は支援される対象というだけでなく、個性を生かして作家にもなれる」と語った。